



はこだて Marine Letter

令和4年9月 No.112

おだやかな晴天に潜む危険な「うねり」！

強い風が吹き「風浪」と「うねり」で沖合いが荒れて見える時は、誰でも危険であることが分かります。このような日は、小型船なら出港を見合わせるでしょう。ところが、天気が良くて風や波がおだやかに見えても、危険な「うねり」が潜んでいる場合があります。

その原因は、遠くにある台風や低気圧が起こした波の余波である「うねり」です。このような「うねり」は、沖合いではほとんど目立ちません。このため休日には、「絶好の釣り日和」とばかりに小型船が沖合いに出ますが、これが「うねり」の仕掛ける**わなの1つ**です。

なぜなら、「うねり」の特性（**特性については、R4.4 マリンレターNo.107 参照。**）により、沖合いで目立たない「うねり」が陸岸近くの浅い海域で小型船を転覆させるほどの高波に急変することがあるからです。

日本列島の太平洋沿岸沖合いに台風や低気圧がある場合、太平洋沿岸にこのような危険な「うねり」が発生しやすくなります。

新聞やテレビ等の気象情報を確認し、風の強さや波の高さの予測も大事ですが、「風が弱く、波もおだやかでしょう。」などと説明されても、油断してはなりません。「**天気図**」を見てみましょう。太平洋沿岸沖合いに台風や低気圧がある場合、余波による「うねり」が太平洋沿岸に及んでいることがあり、沖合いは、風や波がおだやかでも陸岸近くで高波が発生する可能性があります。特に台風や低気圧の勢力が強く、動きが遅い場合は要注意です。



写真 沖合で目立たない「うねり」が陸岸の近くで高波に急変する様子



観天望気（津軽海峡付近の天気のことわざ）

- ・ **ニシ風と手間取り日いっぱい（吉岡地区）**
日雇いの人夫は日中だけ働くように、西風も日中だけ吹いて夜は凧になる。
- ・ **秋のヤマセは凧ればシカタ（入舟地区）**
秋の東風が吹き止むと、西南西風となり波が立ってきて時化となる。
- ・ **恵山のボタンはずれて強い風（恵山地区）**
恵山（618 祀）に暈雲がかかっているときは大丈夫だが、それが切れると風が強くなってくるので要注意。
- ・ **駒ヶ岳に雲かかり北へなびけばヤマセ続く（尾札部地区）**
駒ヶ岳に雲がかかって、その雲が北の方向になびくと東風か吹き続く
- ・ **ヤン衆泣かせの風（日浦地区）**
秋に一日一杯吹く西風のこと、夜には治まるので漁夫は苦勞する。

